

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	太陽の子南雪谷保育園
施設所在地	東京都大田区南雪谷4-14-11
法人名	HITOWAキッズライフ株式会社

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

いきもの「大切な命」

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

閑静な住宅地の中にある保育園。大田区の中でも公園や施設だけではなく、街全体が緑豊かな環境で草花を植えたり、生き物を育てている家庭が多く、子どもたちも「生き物」に対して興味はあるが、関わり方が分からない様子が見られている。飼育等によって関心を深めるとともに、育て方を知り命の大切さに気付けるようにしたい。

## 2. 活動スケジュール

4月：

- ・今年度のテーマは子どもたちと考える【生き物】に決定。
- ・クラスに空の水槽を置き、子どもたちが興味を示す。
- ・水槽に水や石を入れ環境を整える。

5月：

- ・クラスの生き物図鑑を増やす。
- ・水槽の中に飼いたい魚を話し合う。

6月13日：遠足でしながわ水族館へ行き、水の中にいる生き物を観察する。

7月9日：水槽の中で何を飼うか再度子どもたちで話し合いをする。

7月10日：メダカを迎え、水槽に入れて飼う。

8月23日：移動水族館で、カニや魚の生態や触れ合い方を学ぶ。移動水族館のスタッフさんに、いろいろな生物の生息する環境について学ぶなかで、子どもたちがメダカの育つ環境に興味をもつようになる。アドバイスをもらい、水槽に水草を入れる等工夫をし、園でメダカの育て方を探究する。

生育環境を変えたことで、育てているメダカの水槽内で卵を生んでいるのを発見する。

9月 8日～：メダカが孵化し、親のメダカと子のメダカを別の水槽に分けて育てる。餌やり当番や水槽の清掃を行いながら、子どもたちと一緒に育て、成長過程や水槽の中の環境を探究する。

10月上旬：水草に付いていたと思われる巻貝が増える。水草も成長し、メダカが見えづらくなっていく。

12月上旬：子どもたちと水槽の掃除を一緒に行い、子メダカも大きくなってきたことから、メダカと巻貝を分けて成長を探究する。

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

室内：・水槽、メダカ、エサや掃除セットを子どもたちが観察し世話ができる場所に常設する。

- ・移動水族館を招き、子どもたちが触れるのを楽しみにしていたカニを始め、コイ・カメに触れ、水槽に展示された生き物に関心を深めるなど、探究活動を行った。

園外：・水族館で様々な水の中の生き物を観察し、種類や生態について関心を深めていた。

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

- 1.空の水槽を園内に設置し環境を整える中で、子どもたちが魚について調べ始め、水槽では何が飼えるか話し合う。
- 2.クラスの生き物図鑑を増やす。図鑑を読んだ園児が魚について興味を持ち始める。
- 3.遠足でしながら水族館へ行き、様々な生き物を実際にみて生態について探究する。
- 4.子どもたちで話し合い、様々な魚がいる中で、水族館で見た魚は水槽では飼えないことを知り、何を飼育するか相談する。
- 5.戸外活動中にお花屋さんにてメダカを購入し飼うことを決める。
- 6.餌やりをどのようにしていくか子どもたちと話し合い、お当番で餌をあげることを決める。
- 7.水の中にいる生き物に触れてみたいという声上がり、子どもたちが園長に相談する。
- 8.移動水族館を招き、水の中の様々な生物の観察や触れ合い方、メダカを育てる上での水槽の環境や孵化した後の飼い方等について探究する。また、メダカの産卵のために必要な水草をいただく。
- 9.水が濁る環境であり、産卵には適していない環境であることを知り、何処に買いに行けば良いのかなどを調べ、購入しに行く。
- 10.子ども自身がメダカの卵を発見。保育者に教えてくれる。
- 11.子ども達と成長したメダカと孵化したメダカの水槽を分けて観察する。
- 12.水槽が汚れたため、水の変え方やフン等を綺麗にする道具を調べ、子どもたちと一緒に掃除をする。
- 13.メダカと貝の育てる水槽を分け、それぞれの環境を整える。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

毎年園で子どもたちと取り組むテーマと一緒に決めるのが園の文化になっており、今年度のテーマ「いきもの」を話す中で、草花や水の中の生き物について興味を沸き、図鑑などで調べる。子どもたちの興味を保育者が広げ、一緒に水を入れたり石を入れたりし環境を整える。日頃見慣れている草花は戸外活動で保育者が声掛けすることで興味を持っていたが、水の中の生き物は上手くイメージを持たせることができず、すぐに興味がなくなってきてしまう。クラスの生き物図鑑を増やすと、図鑑を読んだ園児が魚について興味を持ち始める。絵をかいたり、魚を制作したりする活動から、次第にクラス内に魚の活動が広がっていく。子どもたちと一緒に水槽の中に入れるもの等を考えるとマグロやカニなど自分たちで調べた魚を飼いたいという話になるが、水槽に入る魚なのかを調べるため、実際に見に水族館に行く。水族館でみた生き物は園の水槽では飼えないからだめだよねという話になり、園で何を飼うか相談していく中で、たまたま戸外活動の途中で見かけたお花屋さんの店先でメダカが販売されているを見つけ、メダカを購入する。ただ、子どもたちはカニと一緒に飼いたい、メダカと一緒に飼うことができず、カニに触れる機会が欲しいことを子どもたちが園長に相談し、水のいきものと触れ合い体験ができる移動水族館を招く。

水族館で魚等を観察し、水槽で育てられる魚を話し合う。戸外活動の途中のお花屋さんでメダカが販売されているのを見つけ、興味を持ち飼うことになる。

メダカを飼ったものの、カニに触れてみたいという声が多く、メダカには触れることが出来ず、魚等に触れてみたくなり、触りたい魚等を子どもたちで考え、移動水族館という触れる体験があることを知る。移動水族館では魚等の触れ合いだけでなく、メダカの育て方も教えてもらう中で、メダカに卵が付いていることに気付いて喜び、卵を育てる環境や生まれてすぐのメダカの育て方も教えてもらう。

教えてもらったことを子どもたちと保育者、保護者と共有しながら育て、卵から孵化するととても喜んでいる様子が窺えた。孵化したメダカを別の水槽に移し、少しずつ大きくなる様子に子どもたちも笑顔で喜ぶ。水槽が汚れると少しずつ興味がなくなるため、子どもたちと一緒に掃除をすることで、より身近に大切に育てる様子が見られている。

孵化したメダカも少しずつ大きくなってきたが、水草の成長や水草に付いていた巻貝が増え、メダカのフンも増えたことで、興味が少しずつ無くなる。

子どもたちとメダカと巻貝を育てる水槽を分け、フンの掃除や水草の量も調節することで、それぞれの生き物が観察しやすくなり大切に育てようとする。



## 5. 振り返り

### <振り返りによって得た先生の気づき>

メダカ飼育に伴い小さな命を大切にすることに子どもたちのワクワクが広がり、青虫等も育ててみたいと口にするようになった。餌やりは子どもから「メダカにエサをあげましょう」と当番の子が保育者へ声を掛けてくれ実施。無言でエサを与えていたが、最近では「ごはんだよ〜！」や「たべてね〜」等、口にしながらか関わっている。

一番メダカに興味のある子どもをメダカリーダーとしてメダカを園で育てる。

また水槽に巻貝が産卵すると、発見したメダカリーダーが他の子どもへ教えてあげている様子も見られている。子どもたちが、登園してくるとまずメダカを観察しながら朝の準備をしている姿も多く見られているため、登園する楽しみにも繋がっている。登園を渋る子どもメダカの話で落ち着いたり、気持ちを切り替えたりするきっかけにもなっている。保護者の方からは、園でメダカを飼育することで、家庭でも育てお世話をするようになったと喜んでいただいた。

図鑑で調べていた知識から、実際に水族館で観察し、水槽に入る大きさの水のいきものを子どもたちで考え飼うことにしたいのち。子どもたちと一緒にメダカ等、いきものを飼う上での約束「いのちをそだてる」「たいせつにする」「ごはんはおとうばんさんがあげる」を守りながら、お世話をすることができた。月1回の掃除は保育者は大変と思うほど作業はあるが、子どもたちは楽しんで行っている。現在は、保育者が手伝ったり、やりたい子だけ掃除をしたりする事はあるが、ゆくゆくは子どもたち主導できるように、掃除の手順やメダカの育て方等を年長児を中心に引継ぎ、大切に育てていきたい。